

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第68号

2023(令和5)年6月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

八十八夜の前後を見計らって — 棉栽培法再考 その3 —

綿の種を蒔く時期について『綿圃要務』には以下のように記されています(農書の引用は現代語訳)。

「種を蒔く時期は、八十八夜の前後を見計らって蒔くこと。各地域の寒暖や気候によって、早く蒔くのが適しているときと、遅く蒔くのが適しているばあいとがある。遅いときには、五月初旬から夏至の前までに蒔いてもよい。遅蒔きでも木は繁るが、実の付き方が少なく、秋になっても吹き切らず、収量が少ない。早蒔きのばあいは、大風や秋雨がつづいても、それをさけることができるので、早く蒔いて肥料を十分に施せば利益が多い。土地による遅速は、…諸地方の気候を見計って蒔くことである。」(圃⑤355)

このように述べた上で、章をあらためて播州姫路、備中玉島・早島、備後福山、和泉国大鳥郡、大和国、河内国の綿栽培法について触れています。ちなみに、大和国では「田につくるばあい、八十八夜の四、五日前から始めて八十八夜の四、五日後まで蒔く。畑は、八十八夜から四、五日後に蒔く。」(同388)

『家業伝』には、「当村では八十八夜を中心に播く。」とした上で、『本田』では八十八夜の四、五日前から四、五日すぎまで、『砂新田』と『古畑』では八十八夜の五日すぎから十日までのうちに播種すること。すべて陽気に向かうのであるから、播きどきをこころもち遅らせたほうが無難である。八十八夜の五日すぎから十日までのうちがよい。」(家⑧17)と記されています。目安としては「朝夕に袷、日中は単物を着るくらいの気温で、日中に団扇であおいでも寒いとは感ぜず、裸で寝間に入ってもぞっとしない、また、素足で歩いても寒くない時分」(同17)と、情緒あふれる表現で伝えています。

また、『日本棉作要説』には、「現今にては八十八夜を標準となし、此より五日乃至十日も後れて播種するもの多し、或る地方の如きは、八十八夜乃至九十九夜など、定めたる処もあり、五月四五日より十四五日の間に播種するものを普通とす。」とした上で、「但し地方緯度の差と歳の寒暖の遅速によりて之を伸縮すること勿論なり。」(要271)とあります。

このように、上記三書はいずれも八十八夜を中心にその前後とし、どちらかと言えばその四五日後から十日後くらいを推奨しているように読み取ることができます。

ただ、『日本棉花栽培法』には「棉花は古来播種の季節を立春より百十日、即ち蜜柑の花盛り又は卯の花盛りを以て適季とせしが、現今にては凡そ立春より百五日乃至百十五日目即ち五月中下旬を以て一般の播種期とす。」(法84)と記されています。上記三書よりさらに十日後になります。これは著者の主たるフィールドが鳥取県にあることと関係しているかもしれません。

なお、『山本家百姓一切有近道』には、播種期に関する明確な記述は見当たらないものの、暦にしたがって農作業の段取りを記している内容から、八十八夜を基準としていることは間違いのないと思われます。あえて記すまでもない自明の事柄であったということでしょうか。

ちなみに、八十八夜とは立春より数えて88日目。本年(2023)は5月2日が八十八夜でした。それから四五日ないし十日後となれば、近畿地方では畑蒔きの場合は5月6日~12日頃が最適期となります。



6月25日、二番肥

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和5年5月26日~令和5年6月25日)

宮城県1、東京都1、長野県1、京都府1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和5年5月26日~令和5年6月25日)

メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数5組31名



《綿の栽培記録 2023》－ 令和5年度版 その2－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和5年5月22日～6月21日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

本葉が出そろった5月中旬に1回目の追肥。菜種油粕と草木灰を株周りに少々。夏至を目安に2回目の追肥を行い、菜種油粕と魚粉末を畝の片側の肩にふりかけ、その後に覆土。並行して間引きを行い1本立ちに。生長具合は順調に育っている和綿で40cm前後、洋綿で30cm前後。これは元肥を施した昨年、一昨年とほぼ同程度。ただし、1号畑の和綿畝で、極端に生長芳しくない苗が多く見受けられます。降雨によって水に浸かりやすい場所にその傾向は顕著で、酸素不足が影響しているのかもしれませんが。なお、有機肥料と化成肥料の効果を比較する上で、一部には化成肥料888を用いていますが、いまのところ大きな違いはみられません。

写真は左から、7号試験農場の和綿(松阪長谷川邸種)、1号畑の洋綿(木綿庵アブランド)、魚粉末、菜種油粕。



《綿の発芽試験：5月28日に播種。1週間で8割以上が発芽》

当地における綿の播種適期は4月末から5月末とされています。そこで5月末に播種した場合の発芽率とその後の生長を観察してみることにしました。前日より水に浸けた場合との比較も試みましたが、結果はいずれも播種後1週間で8割以上が発芽しました。詳しくは、Livedoor Blog「綿の栽培記録」参照。

写真は左から5月28日、6月2日、6月3日。128穴のセルポット使用、和綿2種類と洋綿各種40穴。牛乳パック栽培の様子



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：令和元年, 2019年産。丹羽正行氏による打ち綿)

令和5年5月26日～令和5年6月25日 (作業実日数26日) 糸の総量26.5g (7.1匁) 総時間3時間21分

※1分間≒0.132g 1時間≒7.9g (2.1匁)

*今期は12番手相当の糸をイメージしながら紡ぎました。

【研修等の記録】

- ・令和5年05月02日 名古屋の丹羽ふとん店さんに綿打ち依頼。繰り綿発送。(和綿4.7kg、洋綿3.9kg)
- ・令和5年05月20日 名古屋の丹羽ふとん店さんより打ち綿届く。(2020-21年産和綿、2018-20年産洋綿)
- ・令和5年06月04日 兵庫県の合唱団の方々が発表会の後、綿畑の見学マイクロバスで立ち寄られる
- ・令和5年06月17日 天理大学人間学部生涯教育専攻の学生、教員一行5名が授業の一環として来畑